

参考文献

「親」をまなぶ・「親」をつたえる」	大阪府教育委員会
親学習プログラム	栃木県教育委員会
とやまっ子のすがたー小学生の生活実態調査ー	富山県教育委員会
とやまっ子のすがたー未就学児生活実態調査ー	富山県教育委員会
かがやけとやまっ子ー心の教育V-DASH宣言ー	富山県教育委員会

資料提供

「社会意識に関する世論調査」(平成18年) 内閣府
「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成16年) 内閣府
「子育て支援等に関する調査」(平成15年) ㈱UFJ総合研究所 厚生労働省委託
「第2回子育て生活基本調査報告書」(平成14年) Benesse教育研究開発センター
「日本のいじめー予防・対応に生かすデータ集」(平成11年)
森田洋司、滝充、秦政春、星野周弘、若井彌一編著 金子書房

親を学び伝える
学習推進委員

氏名	所属・役職等
会長 神川 康子	富山大学 人間発達科学部 教授
副会長 尾崎 康子	富山大学 人間発達科学部 教授
委員 佐藤 徳	富山大学 人間発達科学部 准教授
// 久保田 真功	富山大学 人間発達科学部 准教授
// 萱原 昌子	小児科医、スクールカウンセラー
// 土肥 由美子	臨床心理士、スクールカウンセラー
// 廣田 勉	前富山県PTA連合会 会長
// 武内 清	富山県PTA連合会 副会長
// 牛丸 美奈代	家庭教育アドバイザー、元富山県PTA連合会 副会長
// 廣川 美奈子	元富山県PTA連合会 総務委員長
// 浦田 久美子	家庭教育アドバイザー
// 高原 徹	砺波市立砺波東部小学校 校長
// 寺西 外美	高岡市立戸出東部小学校 校長

子育て情報・
子育て相談窓口の案内

子育てほっとライン ☎076-433-4150
c-care@esp.pref.toyama.lg.jp (メール相談)
家庭教育カウンセリング 「子育てほっとライン」で予約をお願いします。
子どもほっとライン ☎076-443-0001 kodomohl@tam.ne.jp
子育てネッ!とやま <http://www.pref.toyama.jp/sections/3009/hp/> (パソコン版)
<http://www.pref.toyama.jp/sections/3009/hp/k/> (携帯版)

※その他、相談や悩みについては、「子育てネッ!とやま」ホームページを参照してください。

親を学び伝える学習プログラム

平成20年3月発行
編集・発行 富山県教育委員会 生涯学習・文化財室
〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号 電話 076(444)3435



親を学び伝える 学習プログラム

富山県教育委員会

親を学び伝える学習プログラムの発刊にあたって

この度、富山県教育委員会では、平成18年5月から親を学び伝える学習推進委員会を設置し、2年間かけて作成してきた親を学び伝える学習プログラムを発刊することといたしました。推進委員の皆様方には2年間で延べ11回の検討を重ねていただき今回完成に至ったところです。

以前のように、子育てを応援してくれる人が身近なところに多くいた頃は、日常生活での人々の交流の中で親としての心構えや子どもと接するときに大切なことなどは自然に伝えられ、身につけることができました。しかし、人間関係が希薄化し、核家族化が進んだ現在では、「親」としてのあり方を「学習」すること＝「親学び」が必要となっています。こういう願いからこの学習プログラムを作成したところです。

親としてのあり方や子育てについては、誰にでも当てはまる答えというものはありません。

今後、PTAや公民館、学校、子育てサークルなどのさまざまな学習の場で活用し、あなたの家庭における親の役割や子どもとの接し方などについて学びを深めていってほしいと願っております。

終わりにになりましたが、この学習プログラムの作成にあたり、ご尽力をいただきました神川会長をはじめ、親を学び伝える学習推進委員会の皆様方に感謝を申しあげて発刊のごあいさつといたします。

富山県教育委員会
教育長 東野 宗 朗



親を学び伝える学習プログラムの趣旨と子育て支援

皆さんはどんな家庭に育ち、どんな家庭を築いていますか。ふと気がつく、自分の親と同じことを言ったり、よく似た行動をとり、「子をもって知る親の思い」を実感していませんか。このように子育ては、自然に受け継がれていく文化だったのですが、近年は家族の小規模化や少子化によって、世代間での子育ての支援や継承の機会も少なくなりがちです。本来は、親世代から子育てを学び、同世代で子育てを支えあい、ゆとりや自信をもって子どもと向き合える環境づくりが望まれますが、個々の家庭では、なかなか困難な現状も見られます。そこで、親となり、子どもとかわかることが、自分や家族の生活をいかに豊かにし、人を成長させるものであるかを実感したり、実際の子育ての喜びや悩みを共有し、支えあうことで、心強い子育てができ、社会秩序の安定も維持できればと考えました。

本学習プログラムは、これから親になる若者、乳幼児をもつ親、小学生をもつ親、中・高校生をもつ親をおもな対象として4つのプログラムとしました。どの段階のプログラムをどの世代の方に使っていただいても、親の役割や家庭教育について想像力や創造力を鍛えながら楽しんでいただけるものと思います。

最後に、多くのエピソードや資料の収集、ワークシートの工夫と作成、そしてプログラムの検証等を行っていただきました委員の皆様方に心より感謝申し上げます。

親を学び伝える学習推進委員会
会長 神川 康 子

親を学び伝える学習プログラムの構成

1 親となるための準備期プログラム（ワクワクを楽しもう！）

- ある日の親子の会話から（親の役割ってなんだろう？）
- 静香さん（中学3年生）の日記から（親ってたいへんだ！）
- 良んと萌さんの会話から（家事・育児は女性の仕事？）
- 迷う恵梨花さん（子育てはガマンと忍耐？）
- 働かなければ大人じゃない？（働くことを考えてみよう！）

2 乳幼児をもつ親のプログラム（ドキドキを楽しもう！）

- 赤ちゃんの行動や言葉をまねてみましょう！（赤ちゃんとは体験を共有しましょう！）
- 赤ちゃんの感情の調子に波長を合わせてみましょう！
- 忙しいお母さん、話をきいてほしい太郎君（子どもと向き合おう！）
- ついイライラしてしまうお母さん（イライラに対処する）
- 保育園から絵本を借りてきたよ！（子どもの気持ちを受け止めよう！）

3 学童期の子どもをもつ親のプログラム（イキイキを楽しむ！）

- 健太郎君とお父さん（自立の後押し！？、親の出番は！？）
- 参観日の母親の姿（規範意識が低いのは、おとな？子ども？）
- 子ども同士のけんかに親がかかわり（かかわり方を考えよう！）
- 運動会は誰の競争？（もう6年生なんだから・・・！）
- 地域とのかかわり（親も子ども地域で育つ）

4 思春期の子どもをもつ親のプログラム（ハラハラを楽しむ！）

- 由香のお手伝い（いつまでも子どもと想っていたら！）
- 健一の友達とのトラブル（子どもの問題に向き合おう！）
- 智也の通学（いつまでも手をかけていませんか！）
- 夕飯時の携帯電話（ゆらぐ自我に向き合う！）
- 地域デビュー（社会に踏み出す！）

● 進行例

活 動	時 間	留意点など
アイスブレイキング グループ分け	15分	● 参加者の心をほぐす活動を行う。 ● 話し合いをしやすいようにグループに分ける。 ● 学習のルールや目的を確認する。
エピソードの読み上げ グループワーク	15分	● エピソードを読む。ワークシートへ記入する。 ● セリフを役割分担して演じてみる。
グループでの話し合い 学びあい	20～40分	● エピソードや活動から考えたこと、思い出したことなどを話し合う。 ● それぞれが考えたセリフで演じてみる。
ふりかえりや発表	20分	● 学びを広げ、発展させるため、他のグループの発表を聞いたり、資料をもとに話し合ったりする。

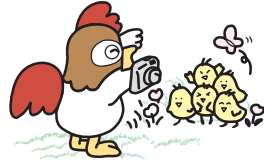
※ 全体の時間に合わせてそれぞれの活動時間を調整します。

※ 参加者によって内容を工夫したり、違う世代のエピソードも使用したりすることが可能です。

1 ワクワクを楽しもう!

やがて親になることを考えてみましょう

親の役割ってなんだろう?



1 エピソード

ある日の親子の会話から

- 1 誠くんは高校1年生。誠くんの家族は、誠くんを含めて両親と妹の4人ですが、お父さんは単身赴任のため、現在は3人で暮らしています。
- 2 誠くんのお母さんは、いつも朝6時には起き、家族3人のお弁当と食事の用意をします。みんなの食事が終わったら、後片付けをし、それから仕事に出かけます。
- 3 ある日のこと、誠くんのお母さんは、仕事から帰った後、洗濯を済ませ、夕食の支度をしていました。そのとき、誠くんから電話がありました。



今日、クラスメートとカラオケに行くから、食事は外で食べてくるよ。

わかったわ。でもあまり遅くならないようにね。



うん。遅くても10時ぐらいには帰るよ。



- 4 しかし、誠くんが家に帰ってきたのは、12時を少しまわったくらいのことでした。誠くんのお母さんは、誠くんが帰宅するのをずっと待っていました。あなたの家庭ではどんな親子の会話になりそうですか。吹き出しに書いてみましょう。



Blank speech bubble for the girl's response.



Blank speech bubble for the boy's response.

グループワーク

- 1 3人1組になり、いろいろな会話を考えてみましょう。

手順

- 1 3人1組のうち2人が親の役と子の役となる。1人は聞き役。
- 2 自分の家庭の様子を思い浮かべながら親子の会話をしてみましょう。聞き役は2人の会話を否定しないこと。
- 3 役割を順次交替し、3人が1回ずつ親と子の役を受け持つ。
- 4 3人全員で考えた会話をグループごとに発表しましょう。



Blank speech bubble for the girl's response.



Blank speech bubble for the boy's response.

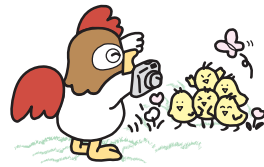
- 2 自分が親になるとしたらどんな親になりたいか話し合ってみましょう。

Blank area for discussion.

- 3 あなたの親のことを思い浮かべ、親の役割について考えてみましょう。

「親の役割ってなんだろう？」

親ってたいへんだ！



2 エピソード

静香さん(中学3年生)の日記から

10月10日

たいへん！お母さんが緊急入院した。
拓也の11歳の誕生日ケーキを買いに行く途中、
車に接触。自転車ごと倒れて大腿骨骨折で
全治1ヶ月。
どうしよう・・・でも命に別状ないし、
お父さんと拓也と私できっとなんとかなるわ。

10月13日

天の助けだわ！大阪のおばあちゃんが来てくれた。
ありがとう、本当にありがとう。

10月29日

明日は、お母さんの一時退院の日だわ。

10月11日

今日は、朝からパニックだった。
お米ってどうやって炊くの？
こんなことになるんならお母さんにちゃんと
教わっておけばよかった。
お父さん、私にハンカチや保険証の在り場所
なんか聞かないでよ。私だって知らないよ。
ア～ッ、忘れてた、お弁当どうしよう！
コンビニで買おうかしら。

10月14日

おばあちゃん、膝が痛いって言いながら
一生懸命働いてくれている。
でも、お願いだから私のお気に入りのブラウスと
お父さんの下着、一緒に洗濯しないで。
勝手に私の部屋を掃除して、大切にしていた
ファッション誌を捨てないで。
あーあ、お父さん、また背広姿のまま寝てる。
会社帰りに病院寄って、母さんの面倒
見てるんだもん・・・きっと疲れてるんだわ。
ガミガミ叱り声でもいいから、お母さんの元気な
声、聞きたいなあ。

この日の静香さんの日記を後の
ワークシートに書きましょう。



グループワーク

1 日記を読んで、あなたが静香さんなら、お母さんの入院中にどのようなことができるか考えてみましょう。



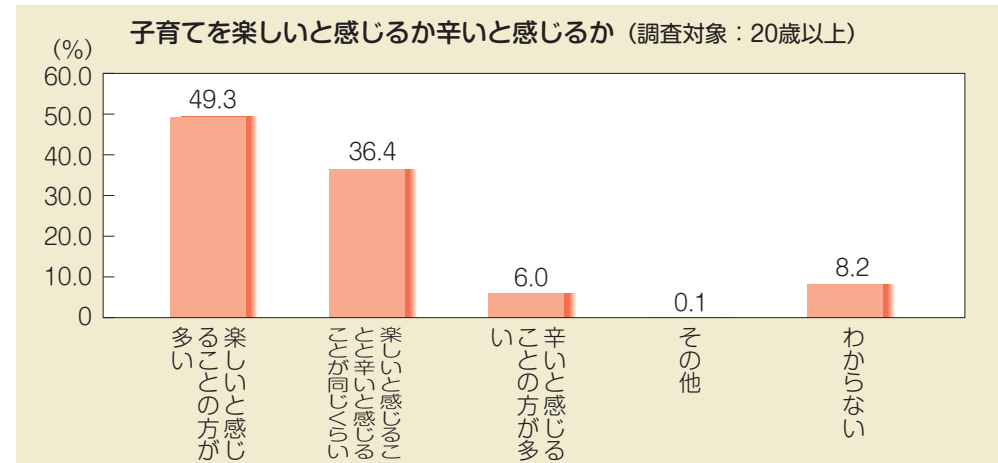
2 10月29日の日記を、静香さんの気持ちになって、次のワークシートに書いてみましょう。

「明日は、母さんの一時退院の日だわ。」

3 子育ての楽しさや大変さって何だと思いますか。思いつくことを想像してみましょう。

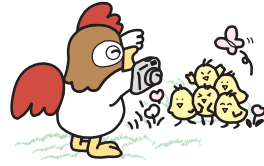
4 あなたの親に、子育ての楽しかったことや大変だったことを聞いてみましょう。

参考資料



※出典：内閣府「社会意識に関する世論調査」(平成18年2月調査)

家事・育児は女性の仕事？

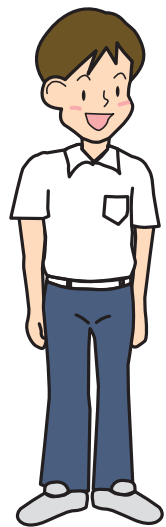


3 エピソード

良くと萌さんの会話から

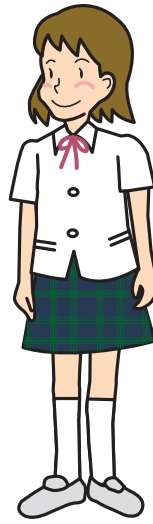
良くと萌さんは同じ高校に通う恋人同士（ともに高校3年生）。ふたりは高校に入学してからすぐに付き合いだしたため、付き合いは3年目をむかえています。このように付き合いは長いものの、ふたりの恋は色あせることなく、お互いに結婚することを夢見ています。

ある日の学校からの帰り道のこと、ふたりは結婚後のことについて話をしました。



おれ、結婚するとしたら萌以外は考えられないよ。

私も。良くと結婚したら幸せになれる気がする。



結婚して子どもができれば、萌には家にいてほしいなあ。おれの両親は共働きで、小さかった頃のおれはずいぶん寂しい思いをしたから。おれの子どもには絶対にそんな思いをさせたくない。あと、おれが仕事から帰ってきたら萌がおれを玄関で迎えてくれて、温かい食事とお風呂が用意されている。そんな光景にもあこがれるなあ。

良：

萌：

Blank area for Ryo's notes.

Blank area for Moe's notes.



- 1 エピソードを、役割分担して読み上げましょう。
- 2 各自で最後の萌さんと良くんのせりふを考えて、吹き出しに記入してみましょう。

- 3 あなたの両親であれば、どのような会話になると思いますか？ワークシートに書いてみましょう。

母：

父：

- 4 各自2と3で記入したことを、一人ずつ順番に紹介しましょう。

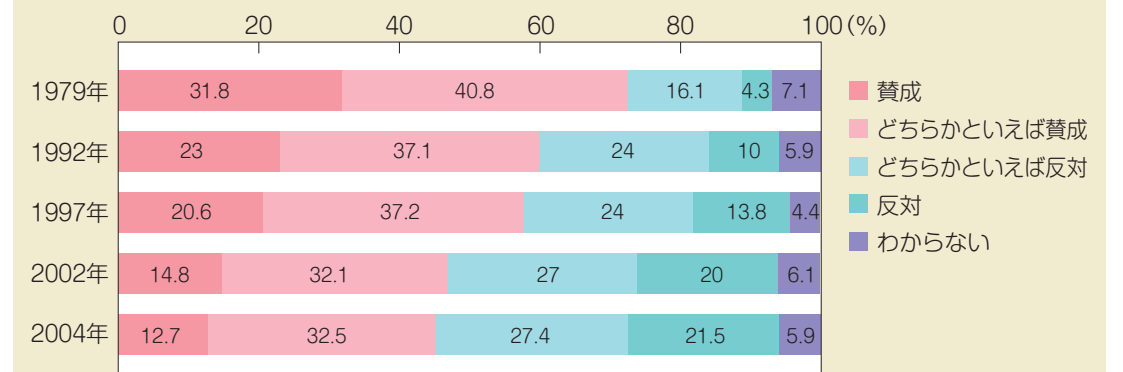
メモ：

- 5 男性の役割は外での仕事、女性の役割は家で家事・育児という考え方について、どのように思いますか？自由に意見を出し合しましょう。

メモ：

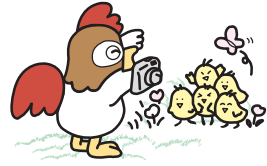
参考資料

「夫は外で働き妻は家を守るべき」という考え方をどう思うか



※（内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」平成16年11月調査より作成）

子育てはガマンと忍耐？



4 エピソード

迷う恵梨花さん



恵梨花さんは18歳。妊娠・結婚をきっかけに高校を中退し、もうすぐ1歳になる翼くんの子育て真っ最中です。結婚前は、大好きなテニス部で大活躍。休みの日は友だちと映画やショッピングなど、楽しい高校生活を送っていました。

主婦となった今は、夫の慎吾さんは仕事で帰りが遅く、家事や育児は恵梨花さんの役目です。

最近の恵梨花さんにとって唯一の息抜きは、同じ高校に通い大学に進学した、正美さんとのお喋りです。今日も、正美さんから恵梨花さんの携帯電話に連絡がありました。



正美 「恵梨花、元気？今、話できるかな？」
 恵梨花 「正美！大丈夫だよ。翼、ちょうど眠ったところだから」
 正美 「一日中、翼ちゃんと一緒にでしょ？たいへんだね」
 恵梨花 「でもね、うれしいこともあるよ。翼、このあいだ初めて“たっち”ができるようになったの。もうちょっとでできそうだし。子どもの成長ってすごいよ！」
 正美 「そう。ところで、来週の土曜日、ちょっと出てこれないかな？久しぶりにライブに行くんだけど、ひとりじゃつまらないし、恵梨花もどうかと思って・・・」
 恵梨花 「行きたいなあ。ライブなんてずっと行ってないし、正美ともゆっくり話したいな」
 正美 「じゃあ、たまには慎吾さんに翼ちゃん任せて、出かけようよ」
 恵梨花 「土曜日仕事だし、無理だよ。」
 正美 「じゃあ、慎吾さんのおかあさんをお願いしてみたら？」
 恵梨花 「翼、このごろ人見知りかひどくて、何をしても私じゃないとダメなの。夜、目が覚めて私がいなかったらきっと大泣きしちゃう・・・でも、正美に会いたいし・・・」
 正美 「じゃあやっぱり無理かなあ・・・」
 恵梨花 「・・・」

グループワーク

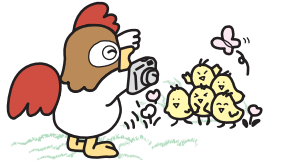
- 手持ちの携帯電話を使って動作をまねながら、エピソードを役割分担して読み上げましょう。
- あなたが恵梨花さんなら、ライブに行きますか？あきらめますか？理由も合わせて考え、各自でワークシートに記入してみましょう。

行く	あきらめる	その他	理由：
----	-------	-----	-----

- 家庭や子どもをもつと、生活はどのように変わるでしょう？グループで話し合ってみましょう。

メモ：

働くことを考えてみよう！



5 エピソード

働かなければ大人じゃない？

勇樹くんは高校2年生、卒業後の進路について考え始めています。最近、将来どのような仕事に就きたいのかを友人と話す機会が増えました。



友人A
大学進学を希望。学んだことを生かした職業に就きたいと考えている。



友人B
親は自営業。家業を継ぐことを考え、親も期待している。



友人C
卒業後は就職希望。早く経済的に親から自立したいと考えている。



友人D
両親が共働きのため、料理や洗濯が得意。就職に強い意欲はなく、早く結婚して家事や子育てに専念したいと考えている。



友人E
自分の生活パターンにあった仕事をしたいと考えている。職場に拘束されないフリーター生活が理想。



勇樹くん
みんな、進む道が違うみたいだね。・・・でも、どうして、大人になったら働かなくちゃいけないのかな？

グループワーク

- 各自でエピソードを読んでみましょう。
- あなたは、現在どのような進路を考えていますか。ワークシートに記入しましょう。

ワークシート記入欄

- エピソードや2で記入したことをもとに、働くことの目的や意義についてグループで話し合ってみましょう。

メモ：

ドキドキを楽しもう!

子どもと向き合い、親子の絆を深める

赤ちゃんとは体験を共有しましょう!

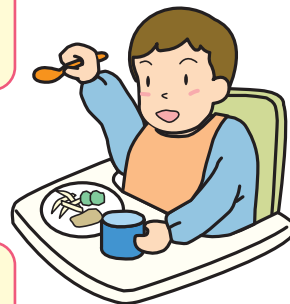
1 エピソード

赤ちゃんの行動や言葉をまねてみましょう!

たとえば、赤ちゃんがテーブルを「バン」とたたいたら、ママやパパも一緒に「バン」とたたいてみましょう。「バンバンバン」と3回たたいたら、一緒に「バンバンバン」と3回たたいてみましょう。赤ちゃんが何かを見て、「アーアー」と言ったら、同じように「アーアー」と言ってみましょう。ママやパパも同じ口調で「アーアー」と言ってみましょう。何でもいいから、赤ちゃんの行動や言葉をまねてみましょう。(もしいまここに赤ちゃんがいなかったら、身近にいる人でお互いに役割をかえてやってみましょう。そして、家に帰って、赤ちゃんにもやってみましょう。)

1 赤ちゃん(相手)にどんな変化がありましたか? ワークシートに書き込んでみましょう。

2 そのときあなたはどんな気持ちになりましたか? ワークシートに書き込んでみましょう。



3 どんな気持ちになったかグループで話し合ってみましょう。

メモ:

2 エピソード

赤ちゃんの感情の調子に波長を合わせてみましょう!

1 エピソードのような、「まね」の場合は、赤ちゃんの動作や言葉をそのまま、まねていました。ここでは、行動そのものをまねるというよりも、赤ちゃんとは異なる表現で、赤ちゃんの感情の調子(状態)に波長を合わせてみます。たとえば、楽しそうにガラガラを振り回す赤ちゃんの腕の動きに合わせてうなずいたり、赤ちゃんの喜びの表情に合わせて、声の表情を変えたりしてみます。つぎに例を挙げてみますので、やってみましょう!(身近にいる人でお互いに役割をかえてやってみてもよいでしょう。)

例1 赤ちゃんが毛布の下に隠れていたぬいぐるみを見つけたとします。喜びでいっぱいになって、赤ちゃんの顔がみるみるほころんできます。そうした喜びに波長を合わせ、「うーい」と、それらを声の調子や動作で表現してみましょう。

例2 赤ちゃんがやわらかいぬいぐるみに手をたたきつけています。最初は、ちょっと怒ったように見えますが、たたいているうちに、だんだん楽しくなって、一定のリズムを刻みはじめました。ママやパパもその喜びのリズムに乗って、体を振りながら、「パーン、パーン、パンパンパン」と声を出してみましょう。

例3 赤ちゃんがおもちゃを見つけ、体を傾けて、手を伸ばしています。もう少しで届きそうですが、それでもまだ手が届きません。そのときの赤ちゃんの気持ちに波長を合わせて、「うー、うー」と声を出してみましょう。

1 赤ちゃん(相手)にどんな変化がありましたか? ワークシートに書き込んでみましょう。

2 そのときあなたはどんな気持ちになりましたか? ワークシートに書き込んでみましょう。



3 どんな気持ちになったかグループで話し合ってみましょう。

メモ:

パパ、ママのためのワンポイント知識

赤ちゃんは自分と同じような動きをする他者を好み、そうした他者に強い関心を持ちます。赤ちゃんの言葉や動作を大人が真似ることを「逆模倣」と言います。他者に関心を示さない発達障害児においても逆模倣を行うと、他者への関心が増大するという報告もあります。それに、何より、自分の行動が大好きな人たちに影響を与えているということ、赤ちゃんは学ぶことができます。これは、とても楽しい出来事であると同時に、これから赤ちゃんが成長していく上でとても大きな財産となります。

子どもと向き合おう！

3 エピソード

忙しいお母さん、話を聞いてほしい太郎君

康子さんは、フルタイムで働いています。夫の篤史さんも会社勤めです。夫の篤史さんは、つい最近部所が変わったばかりで気苦労が多く、疲れて帰ってくる日が多くなりました。共働きの2人には、保育所に通っている3歳の太郎君がいます。

今日は、康子さんの職場の仕事が特別いそがしく、帰宅が遅くなり、夕食作りにあせています。

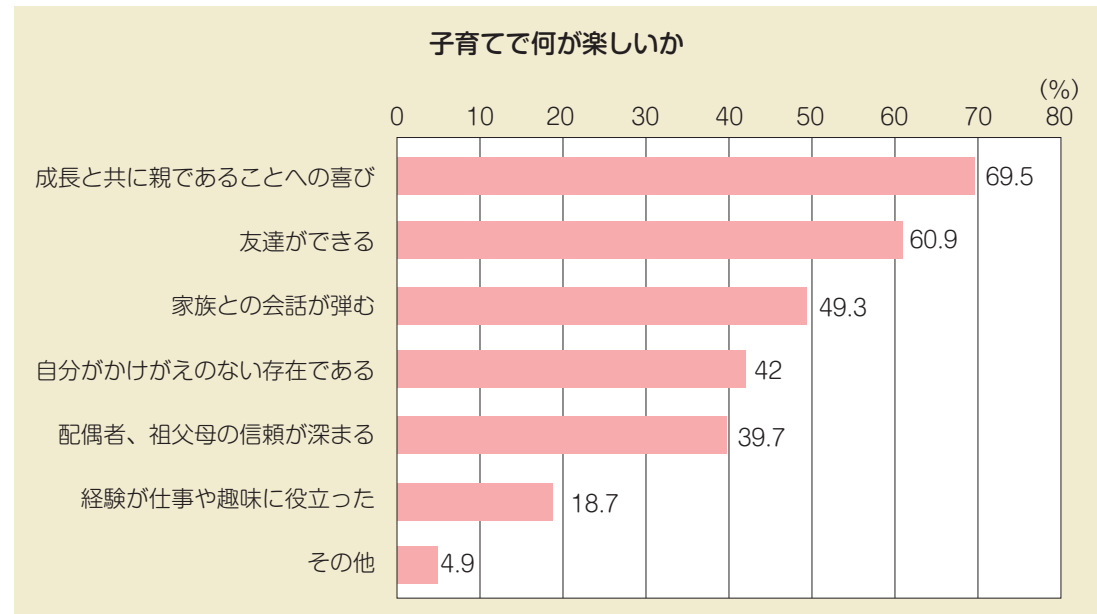
そこへ、3歳の太郎君が来て、後ろからお母さんのエプロンのひもを引っ張りながら、「おかあさん」「おかあさん」と話しかけてきます。

康子さんは、イライラのあまり、後ろにいる太郎君に振り向きませず、「あとで」と言ってしまいました。

場面 台所で、夕食を作っているお母さん。お父さんが帰ってくる時間を気にしながらあせて食事を作っているイライラのお母さん。お母さんのエプロンのひもを引っ張りながら、「おかあさん」「おかあさん」と呼びかける太郎君。



参考資料



※「とやまっ子のすがた」平成16年3月 富山県教育委員会

グループワーク

1 あなたにもエピソードと同じような経験はないでしょうか。その時の経験をできるだけ客観的に書くとともに、その時どんなことを考えたかも書いてみましょう。

経験した出来事：

そのとき考えたこと：

2 それぞれの立場になったとしたら、どんなふうに思いますか。ワークシートに書き込んでみましょう。

康子
(お母さん)

篤史
(お父さん)

太郎
(3歳)

3 それぞれの立場になって感じたことをグループで話し合ってみましょう。

メモ：

4 子どもと向き合っていくためにどうしたらよいと思いますか。ワークシートに書き込んでみましょう。

5 子どもと向き合っていくためにどうしたらよいと思うか、グループで話し合ってみましょう。

メモ：



イライラに対処する

4 エピソード

ついイライラしてしまうお母さん

聡子さんには4歳の翔太君と1歳になったばかりの美里ちゃんの二人の子どもがいます。

翔太君が赤ちゃんのときはそうでもなかったのですが、美里ちゃんが生まれてからは、二人の子育てで時々イライラしてしまうことがあります。

食事のときに、翔太君がお味噌汁をこぼしたりすると、すぐに手が出て、頭をたたいてしまいます。美里ちゃんのおもちゃを翔太君が取ろうとすると、「お兄ちゃんなのに、どうして我慢ができないの」と、またたたいてしまうのです。子どもが二人とも泣き出したり、言うことを聞かないときには、もう何もかも嫌になって、自分だけどこかに行ってしまう気持ちになります。でも、寝ている子どもたちの寝顔を見ているときは、「ごめんね、すぐ怒るお母さんで…」と申し訳ないやら、情けない気持ちになるのですが、昼間に二人の子どもが好き勝手にしだすと、また頭の中がめちゃくちゃになるような気がするのです。

夫に子どもが言うことを聞いてくれないと相談すると、「お前がちゃんと子育てしないからだ」と言われ、ますます落ち込んでしまいます。時々この子たちがいなければとさえ思うこともあります。本当はよいお母さんになりたいのですが、すぐに子どもに手が出る自分をどうしたらよいのか、分かりません。



① 子どもと接していて、どういう状況のときに、イライラしたり、自分を抑えられなくなったりしますか？

② イライラしたり、自分を抑えられなくなったときに、どんなことを感じたり、考えたりしましたか？

③ ②のように感じたり、考えたりする結果、どれくらい強いイライラを感じますか？
最大を100として数字で表してみましょう。

/ 100

④ ②で記入した考えに対して、別の考え方や対処の仕方はできますか？

⑤ ④のように、別の考え方や対処の仕方をする事で、イライラがどの程度和らぎますか？③と同じように数字で表してみましょう。

/ 100



ワークシートに記入したことをもとに4～5人のグループで話し合ってみましょう。

① このエピソードのように、子どもと接していて、イライラしたり、自分を抑えられなくなったときに、①どのように考えたり、対処したりすると、よりイライラが大きくなるか、②どのように考えたり、対処したりすると、イライラが和らぐか、について、話し合ってみましょう。

メモ：

② 自分にもできそうな、参考になる状況や気持ちに対する対処法はありましたか？

子どもの気持ちを受け止めよう！

5 エピソード

保育園から絵本を借りてきたよ！ (山川家の夕方の会話です)

さくら 「お母さん、今日、保育園から『ぐりとぐら』の絵本を借りてきたよ」
 お母さん 「ふーん(洗濯物をたたみながら)」
 さくら 「明子先生が保育園で読んでくれたんだよ」
 お母さん 「そう、よかったね」
 さくら 「お家でも読みたい人は借りていってもいいよって言ったんだよ」
 お母さん 「借りてこられて、よかったね」
 さくら 「お母さんも読んで」
 お母さん 「お父さんが帰ってきたら読んでもらって。
 お母さんは、夜、寝るときにね」

(さくらは、絵本のページを楽しそうにめくっています。
 そこへお父さんが珍しく早く帰ってきました。)

お父さん 「ただいま～」
 さくら 「あっ、お父さんだ。おかえり～。お父さん、これ、読んで」
 お父さん 「えっ、『ぐりとぐら』？ お母さんは？」
 お母さん 「ふーん。(洗濯物をたたみながら)」



グループワーク

- 4～5人のグループに分かれ、このエピソードを役割分担して読み上げましょう。
- あなたにもエピソードと同じような経験はないでしょうか。そのときの状況や感じたことをありのままに書いてみましょう。

- それぞれの立場になったとしたら、どんなふうに思いますか。ワークシートに書き込んでみましょう。



お母さん



お父さん



さくら(5歳)

- それぞれの立場になって感じたことをグループで話し合ってみましょう。

メモ

- あなたの家庭では子どもに本を読んであげたり、子どもといっしょに本を読んだりすることはされていますか。子どもの気持ちを受け止めていくにはどうしたらよいと思うか、グループで話し合ってみましょう。

メモ

3 イキイキを楽しむ! 依存から自立へ

自立の後押し!?!、親の出番は!?!

1 エピソード

健太郎君とお父さん

健太郎君の小学校3年生までの話です。お父さん、お母さんが勤めから帰ってくるのが遅いので、お菓子を食べて、テレビゲームで遊んで待っているのが普通でした。

お母さんと顔を合わせてから、おしゃべりをして、明日の準備をして、夜11時過ぎに寝ることにしていました。

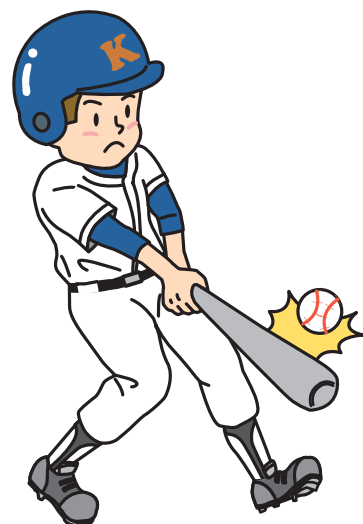
こんな毎日ですから、いつも学校へは遅刻をしていました。朝9時ごろ、お母さんに学校へ送ってもらい、学校の玄関には入るのですが、そこで座り込んでしまいます。無理やり起こされて連れて来られたので、機嫌も悪く、教室には入りにくいのです。このように、午前中はさっぱり調子が出ません。

そんな日が続いた3月のある日曜日、野球部の上級生がユニフォーム姿で練習しているところを目にしました。とてもカッコいいと思ったので、家に帰り話をしてみました。いつもあまり話をしないお父さんが「お父さんも野球をしていたんだよ。初めはへたくそだったけどね」となつかしそに話し、「お前もやってみたら」と背中を押してくれました。



4月に4年生になってから、健太郎君のようすはすっかり変わりました。朝も間に合うように教室へ入るので、それは「野球スポーツ少年団」に入ったからです。練習日には、ランドセルのほかに野球の用具も持って登校しています。放課後になると、野球部の友達といっしょにいそいそと着がえます。ユニホームにそでを通し、スパイクをはき、帽子をかぶるのが気に入っているのです。友達といっしょに行動できることがうれしいのです。礼儀正しくなり、先生たちも驚いています。3年生のころのぐずぐずした態度はどこかへとんでいってしまったようです。

かなり太っていた体も少ししまってきました。ところが、キャッチボールが一番へたです。10mも投げられません。でも、友達に助けてもらいながら毎日キャッチボールの練習に励んでいます。



あなたが小学生の頃、がんばったことは何でしたか? 思い出してみましょう!

小学生の頃、がんばっていたこと:



エピソードを読み、つぎに示す1~5のテーマについて10分ほどで自分の経験を書いてみましょう。つぎに4~5人のグループでいくつかテーマを選んで30分ほど話し合い、後で話し合った内容について簡単に報告し合しましょう。グループでは、あらかじめ司会者、記録者、報告者の分担を決めておきましょう。

1 子どもが自立し始めたと感じたのはどのような時ですか。

自分の経験

他の人の意見: メモ

2 子どもの自立をあと押しする行動とはどんな行動でしょうか。 (例: ほめる、応援する、しつめるなど具体的なエピソードで)

自分の経験

他の人の意見: メモ

3 親子のコミュニケーションの取り方で心がけていることはなんですか。 (例: 子どもの話に耳を傾ける)

自分の経験

他の人の意見: メモ

4 あなた自身が父、母を尊敬したのはどんな時ですか。子どもにとっての、父の出番、母の出番とはどんな時でしょうか。

• 尊敬した時

• 父母の出番

他の人の意見: メモ

5 家族のきずなや、協力し合う姿をどのような場面で子どもに見せていけばよいでしょうか。 (例: アウトドア)

場面

他の人の意見: メモ

規範意識が低いのは、おとな？子ども？

2 エピソード

参観日の母親の姿



参観日に徹の母、美奈代は少し早めに小学校に行き、徹の教室に入りました。すでに何人かの保護者が教室にいて世間話をしていました。しばらくして授業開始のチャイムが鳴り、子どもたちも先生も少し緊張の中で授業が始まりました。しかし、声を小さくはしているのですが、数人の保護者の会話は延々と続き、他の保護者への迷惑や、授業の妨げになるようなものでした。母の美奈代は、家に帰って今日の出来事を家族と話し合いました。

母（美奈代） 「今日の授業参観、何人かの保護者が授業中ずっと話をしてて、気になって集中できなかったわ」
 息子（徹） 「僕も後ろから小さな声で話声がして、授業に集中できなかったよ」
 父（一郎） 「たまに学校で会ったんだから、少しは大目に見てあげないと」
 母 「でも、先生や子どもたちが一生懸命に授業に取り組んでいるのに親の方がじゃまをしているなんて」
 父 「そんなに気になったのなら、注意すればよかったじゃない」
 息子 「いつも子どもには静かにしなさいと言っているのにね」
 母 「そうなんだけど、後の関係のことを考えると、注意まではなかなかできないのよ」
 父 「親として今日は何の目的で参加しているのか、他の人に迷惑になっていないかを考えない大人の方がルールを守っていないみたいだね」

1 母の立場になって考えましょう。あなたならどういう態度をとりますか？

2 親の規範意識が希薄になってきたと言われますが、あなたはどう感じますか？ また、どんな時に規範意識が希薄と感じますか？

3 1と2についてグループで話し合ってみましょう

メモ：

4 グループで出た意見をまとめて発表してください。

メモ：

がかわり方を考えよう！

3 エピソード

子ども同士のけんかに親がかかわり

裕太くんは小学1年生。お母さんからみると優しい子ではありますが、少々気が小さいようで、クラスでも思ったことがはっきりと言えない点が心配です。でも、毎日元気に「行ってきます」と言って学校に出かけていくので、友達もいて、学校もまあまあ楽しいのだろうと安心していました。ところが、ある日学校から帰ってきた裕太くんの様子がいつもと違うように、お母さんは感じました。そこで



母 「裕太、どうしたの？学校で何かあったの？」
 裕太 「ううん、何でもないよ」
 母 「そう、ならいいんだけど……。おやつあるわよ、食べる？」
 裕太 「うん、いまいいよ、後で食べる」
 いつもなら嬉しそうに、お母さんの見える居間のテーブルで、大好きなドーナツや、クッキーを牛乳と一緒に食べるのに、すうっと、自分の部屋に行ってしまった。お母さんはなんだか気になったので、部屋の前に行ってみると、鼻をすするような音が聞こえてきたので、トントンとノックをして部屋に入り、
 母 「どうしたの、誰にも言わないから、お母さんに何があったか言ってみて」
 しばらく裕太は何も言わず口を真一文字にしていたが、
 裕太 「ほんとに誰にも言わない？」と、言って、ランドセルから二つに折れた下敷きを出してきました。
 母 「どうしたの？これ裕太が大事にしていたアニメの下敷きじゃない！自分で折ったの？」
 裕太 「ちがうよ！俊夫くんが……」
 と言ったきり泣きじゃくり始めました。お母さんは、仲良しのはずの俊夫くんがどうして？と思いましたが、内気な裕太くんが泣いている姿を見て、「なんてひどいことを！」と怒りがこみ上げてきました。



1 裕太の気持ちを考えましょう。母の気持ちを考えましょう。

<p>裕太の気持ち</p> <div style="border: 1px solid green; height: 70px;"></div>	<p>母の気持ち</p> <div style="border: 1px solid green; height: 70px;"></div>
--	---

2 あなたが裕太のお母さんだったらどうしますか？

- ア 裕太との話で収める。
- イ お父さんに相談する。
- ウ 俊夫くんの家で電話する：何というのか？
- エ 担任の先生に連絡する：どのように相談する？
- オ 周りの保護者に相談する。
- カ いじめ問題として校長や教育委員会に相談する。
- キ その他（ ）

3 その後の話の展開を考えて見ましょう。

その後の展開：

もう6年生なんだから……！

4 エピソード

運動会は誰の競争？

秋晴れになった10月10日。今日は小学校の運動会です。6年生の恵梨奈さんは国語も大好きですが、運動も大好きです。今日は得意のかけっこで1等賞をとる小学校最後のチャンスです。同じくらい足の早い早苗ちゃんには負けたくないで、体育の時間にも一生懸命練習してきました。昨夜も少し不安でいつもより寝付くのが遅くなりました。

お母さん 「いつまで寝てるの。学校に遅れるわよ。お弁当も水筒も準備したわよ。」
 恵梨奈 「えっ、どうして起こしてくれなかったの？」
 お母さん 「何度も起こしたわよ。とにかく全部準備してあるから着替えて、ご飯も食べていってらっしゃい。お母さんもお父さんも後から見に行くから。」
 恵梨奈 「髪の毛ちゃんと結んでほしいのに、えっお弁当に卵焼きがない……。靴下はあのピンクのが良かったのに……。洗濯中？」
 しゅしゅ、準備して学校へ出かけましたが、気分がすっきりしません。運動会が始まって、いよいよ6年生の100m走の時間です。お父さんはゴール近くにビデオカメラを持ってスタンバイしています。お母さんは素敵なよそ行きの服を着て、来賓席の前まで進出して「えりちゃんががんばって！」と声を張り上げています。数人の保護者もわが子が見やすい場所にと、どんどん前に出ています。「よーい、ドン！」ピストルがなって、一斉に走り出しました。すると、すぐに運悪く靴が抜けてしまい、恵梨奈さんはおもいきり走れず早苗ちゃんに負けて2位になってしまいました。悔しくて涙が出てきました。「お母さんがお気に入りのピンクのソックスにしてくれなかったからだ」と思いました。楽しみにしていた小学校最後の運動会は恵梨奈さんにとって残念な結果になってしまいました。家に帰ってからも恵梨奈さんの気持ちはおさまらず、「お母さんのせいだからね」とぷんぷんです。

グループワーク

1 この話の中で書き換えたいと思うところがありましたら何箇所でも良いので、アンダーラインを引いてください。どのように書き換えたいかグループで話し合ってみましょう。

2 家に帰っても機嫌の悪い恵梨奈さんにどのように接しますか。

お母さんの気持ちになって

お父さんの気持ちになって

話を聞いた祖父母の気持ちになって

3 子どもを信頼して任せられることはどんなことだと思いますか。話し合ってみましょう。



親も子も地域で育つ

5 エピソード

地域とのかかわり

小学5年生の知樹くんのお母さんは今年度、児童会の役員がまわってきています。夏休みには家族旅行をする予定が決まっていたのですが、その前日が納涼祭に決まり、お母さんは、旅行の準備もあるのにと、ちょっと児童会の手伝いが「面倒だな」という気持ちになっています。知樹くんの家族の夕食時の会話です。

母 「今年は町内の児童クラブの役員だから納涼祭に出なくちゃいけないのよ。母さんは輪投げの係なの。お世話大変だわ〜。家族旅行の前日よ！」
 知樹 「ぼくは納涼祭楽しみだなぁ！」
 父 「町内の人たちで集まるのも納涼祭ぐらいだからな〜。近所に住んでいてもなかなか話をするともないし、母さんが世話係ならみんなで参加しよう！」
 母 「まあね、いつもは出たことないものね。夏休みはいろいろ忙しいからね」
 知樹 「ぼく、もう、となりの健ちゃんと一緒にいく約束したんだよ」
 母 「うちは私も仕事しているし、休みの日は家の事もたまっているから、なかなか町内のお手伝いできないけど、今回は役員だから仕方ないわね」
 父 「そういえば、山田のおじいちゃん、今朝、腕章をして横断歩道に立っていたよ」
 知樹 「そうだよ。毎朝いるし、帰りも見かけるよ。見守り隊なんだって」
 母 「ボランティアで毎日地域の子どものためにありがたいわねえ。何年かに一度の役員でも大変なのね」
 知樹 「お父さんも休みの日ぐらいは見守り隊になったら？」
 父 「……」

グループワーク

各自が書いた後、話し合ってみましょう。

1 お父さんは最後になんと言ったでしょうか。「……」のところを考えてみましょう。

「」

2 お父さんの出番って、どんな時でしょう？例を挙げて考えてみましょう。

3 あなたのお子さんが、家族での行動よりも、友達同士のイベントを優先したかったのはいつ頃でしたか？

4 地域の町内会等の役員がまわってきたとき、どのような思いですか？

- ア 何もしたくない
- イ 仕方ないので最小限の協力をする
- ウ まわってきたからには頑張る
- エ 積極的に活動する
- オ その他（）

5 地域の活動に関わってこれまでに良かったと思うことはありますか。それはどんなことですか？

ご自身でご記入ください。

ワークシート

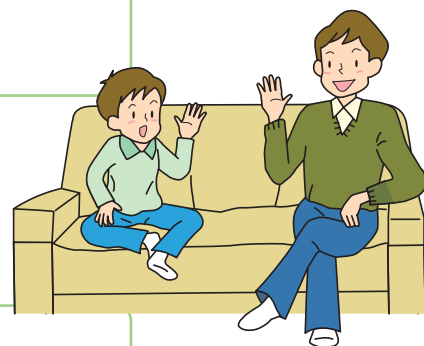
小学校の6年間で子どもたちは、赤ちゃんのようだと思っていた1年生から、まるで大人のようだと思わせる6年生までいちじるしい成長をとげてくれます。そんな子ども達の成長を親として、大人として、どのようにあと押しできるでしょうか。学童期のいろいろなエピソードを参考に、ゆっくり考えてみましょう。

- ① むかし、よく親に言われたことは何だったでしょうか。今になってわかる親の思いもあれば書いてみましょう。

- ② 親としての自分を見つめ直してみましょう。

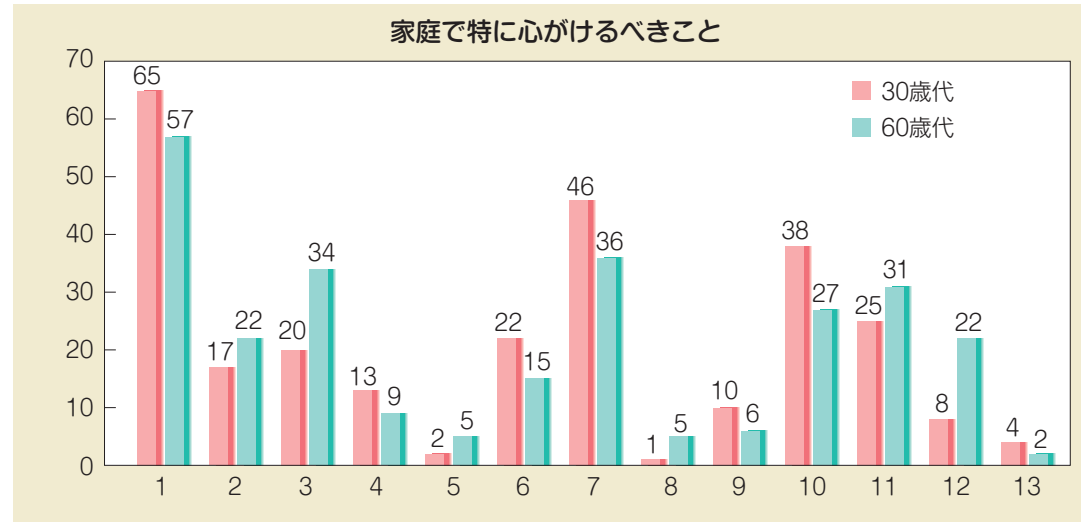
私の良いところ：

親として直したいなと思うこと：



- ③ これからどんな親に成長していきたいと思いませんか。

参考資料



※子どもの健全育成のために（30歳代と60歳代の意識の比較のために、平成15年8月県政世論調査のデータを編集）

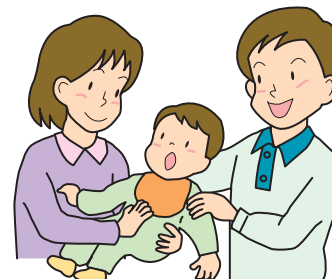
グラフから：アンダーラインを引いた項目はやや年配者に重要という意識が高い。

- 1 親子のふれあいの機会をもつ
- 2 祖父母や近所の人とふれあう機会をもたせる
- 3 子どもに手伝いなどの生活体験をさせる
- 4 子どもに身近な地域で自然体験をさせる
- 5 氾濫する情報を整理して活用できるようにさせる
- 6 夫婦で協力して子育てを行う
- 7 過保護、甘やかせずや過干渉をやめる
- 8 親が子どものしつけに関心をもつ
- 9 親が子育てに自信をもつ
- 10 子どものしつけを学校や他人任せにしない
- 11 親自身が自らの規範意識や生活習慣を律する
- 12 親の働く姿を見せる
- 13 その他

- ④ ワークシートで考えたことをグループで話し合ってみましょう。

- ⑤ 家に帰ってから、家族で話し合い、家族のルールをひとつ考えてみませんか。

家族のルール



子どものいる暮らし、たいへんなこともあるけど、みんなイキキしますね。

4 ハラハラを楽しむ! 自立を見守る

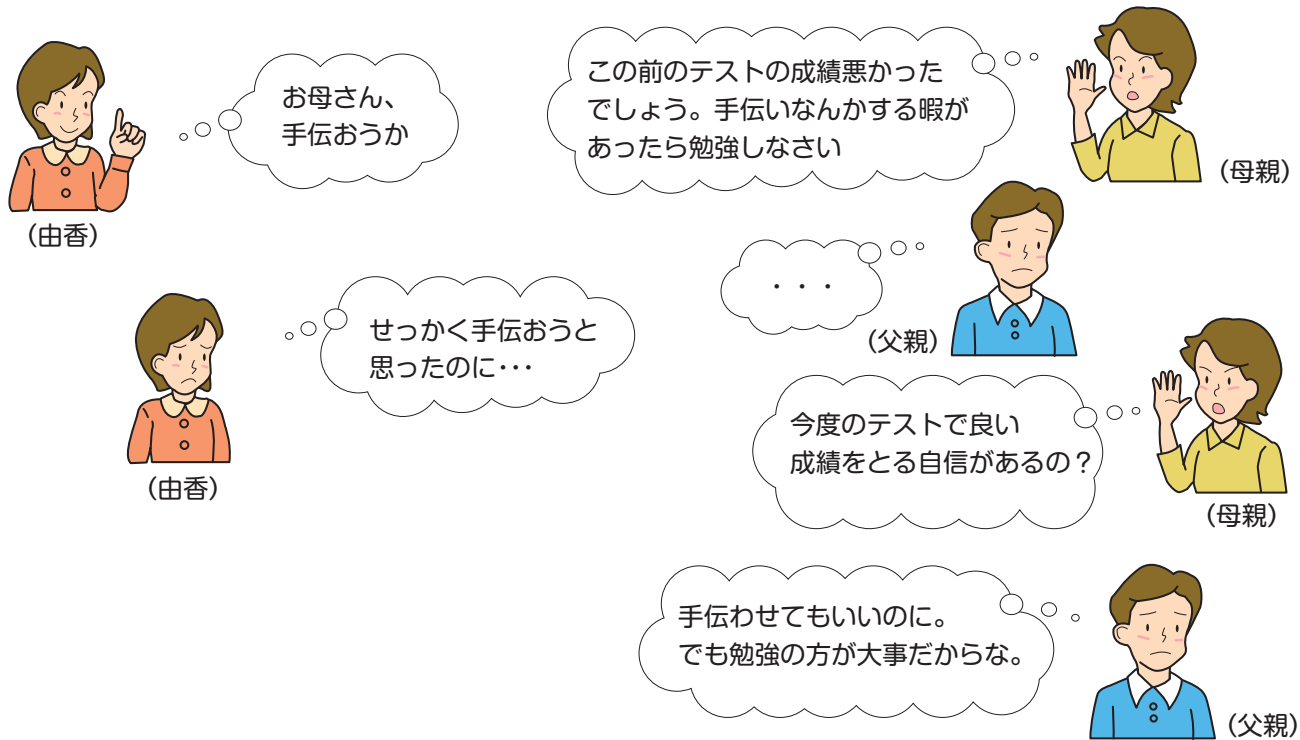
いつまでも子どもと想っていたら!

1 エピソード

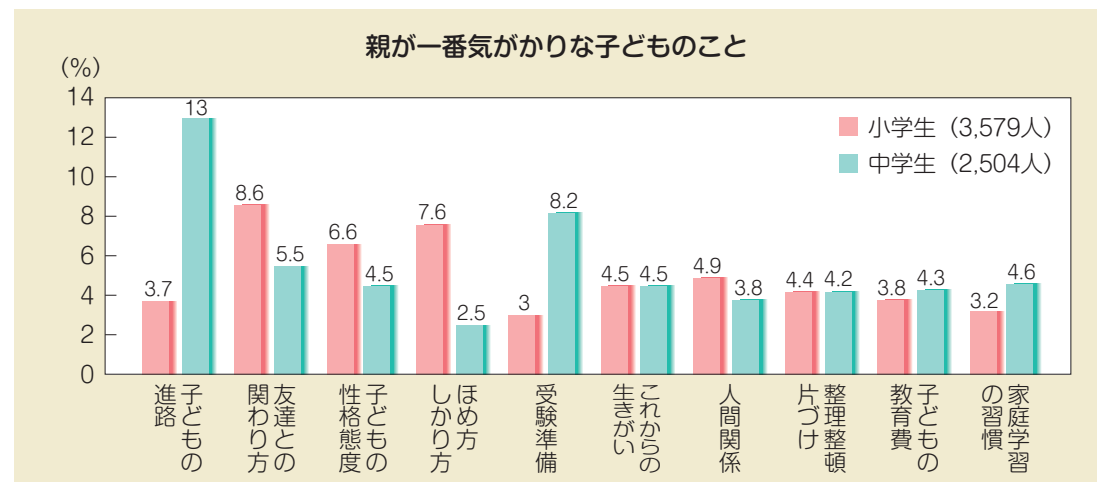
由香のお手伝い

中学1年生の由香は学校から宿泊学習に行き、いろいろな体験をしました。なかでも食事作りは大変でした。初めての経験でしたが、協力しながら何とか作りました。後始末をするのも一苦労でした。その時、「お母さんが、毎日、家族の食事の用意をするのはさぞかし大変だったろうな」と思いました。これからは、少しでもお母さんのお手伝いをしようと心に決めました。

家に帰ると、お母さんが食事の準備をしていました。



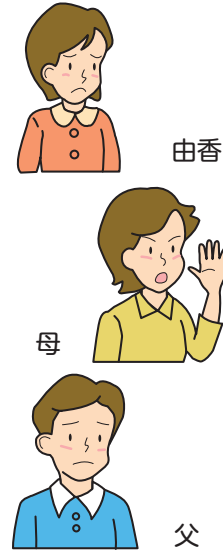
参考資料



※Benesse教育研究開発センター「第2回子育て生活基本調査報告書」(平成14年)

グループワーク

- 4~5人のグループに分かれ、このエピソードを役割分担して読み上げましょう。
- エピソードについて考えてみましょう。
※それぞれの立場について、あなたはどのように思いますか? 下の欄に書きましょう。



※それぞれの立場について思ったことをグループで話し合みましょう。

- あなたの家庭では、子どもの自立に対してどのように対応していますか。

※子どもの自立についてうれしかったことや困ったことなどはありますか。また、その時どのように対応しましたか。下の欄に書きましょう。

※各家庭の様子をもとに、子どもの自立に向けて親はどのようにすればよいかについてグループで話し合みましょう。

メモ:

※最後に、話し合ったことをグループごとに発表しましょう。

メモ:

子どもの問題に向き合おう！

2 エピソード

健一の友達とのトラブル

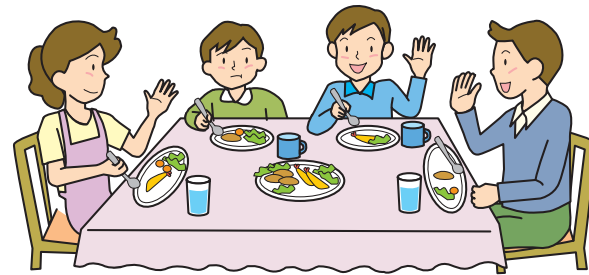
いつものように、健一は仲の良い友達の伸也と学校に行きました。休み時間になって、今度の休日に何をしようかと話していました。

健一 「今度の日曜、映画でも見に行こうか」
伸也 「そうだね。それじゃ何人が誘って行こう」

映画に行く朝になって、健一は急にお腹が痛くなり、行くことができませんでした。
次の日、学校へ行ってみると、友達の様子が何か変です。伸也をはじめ何人かの友達が話をしてくれなくなりました。

健一 「昨日はゴメン。急にお腹が痛くなって映画に行けなかったんだ」
伸也 「……………」
健一 「伸也、映画のことで怒ってるの？」
伸也 「……………」

数日後、家庭での夕食時



この頃、健一の様子がおかしいので、母親が尋ねました。



「健一、
どうしたの？」

(母)

すると、健一は、家族にこれまでのことを話しました。家族からは色々な意見がでました。

「それは健一が悪いわよ。
急にお腹が痛くなったから行けなくて、
何で伸也くんと言わなかったの？」



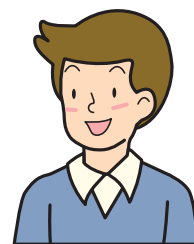
(母)

「それ位で、無視するなんて、
所詮それだけの友達だったんだよ」



(兄)

「お父さんだったら、
みんなにしっかり理由を言って、
謝るよ」



(父)

…………… その後も、家族の会話は続きました。

グループワーク

1 エピソードについて考えて下の欄に書きましょう。

※健一、伸也、母親、父親、兄の立場になって、それぞれの気持ちを考えてみましょう。

健一：

伸也：

母親：

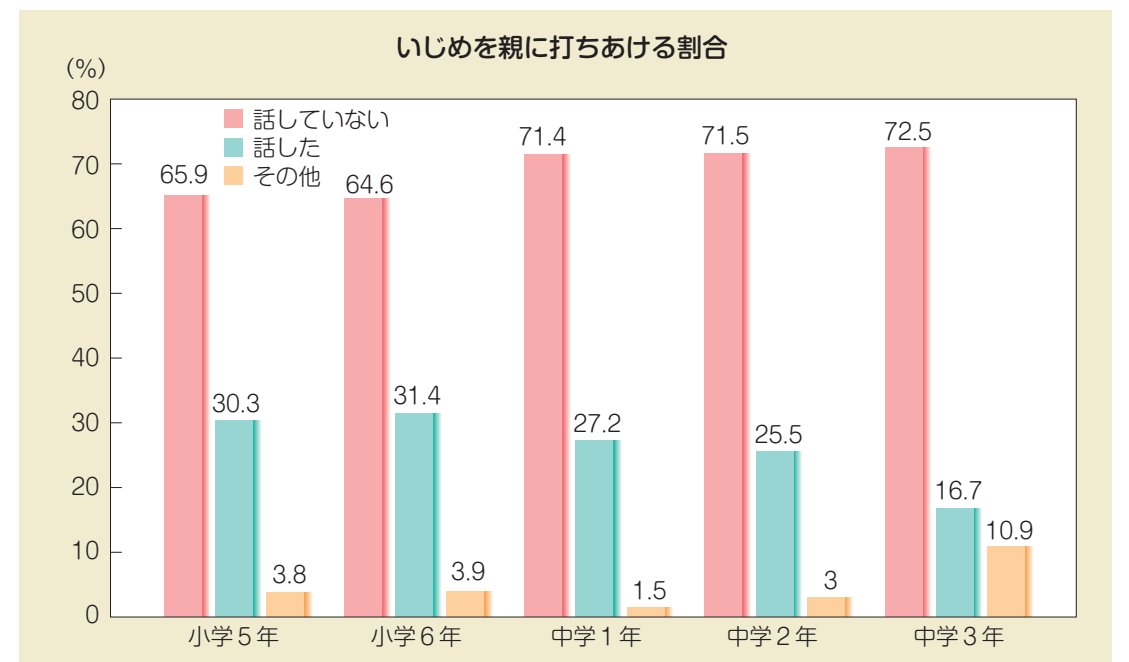
父親：

兄：

※あなただったら、健一にどのように言うでしょうか。

※子どもが困っている問題に対して、親のとるべき対応と役割についてどのように考えますか。

参考資料



※出典：森田・滝・秦・星野・若井編著「日本のいじめ」(平成11年)

親を学び伝える学習プログラム

富山県教育委員会 生涯学習・文化財室

平成20年3月発行

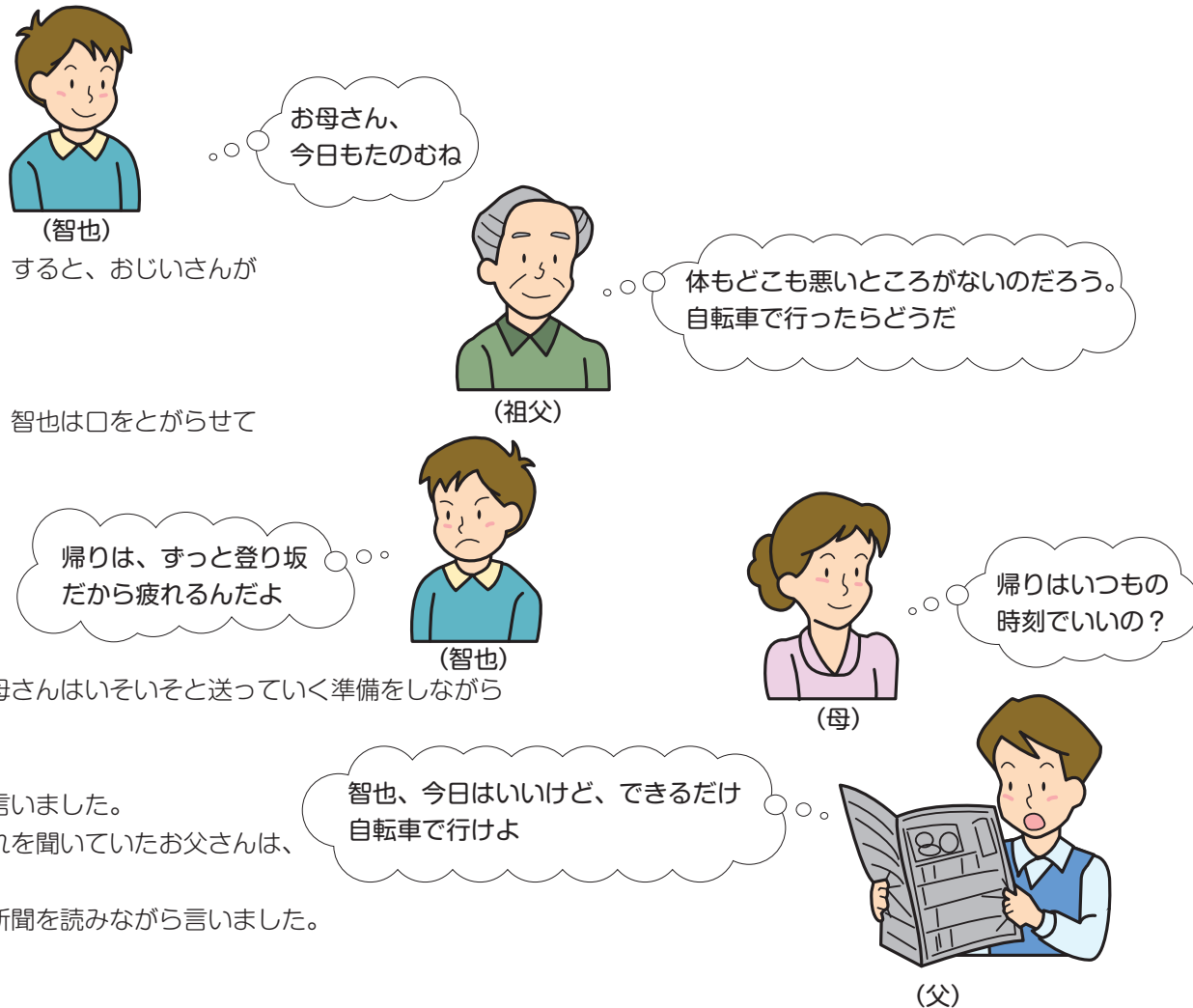
〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号 電話 076(444)3435

いつまでも手をかけていませんか！

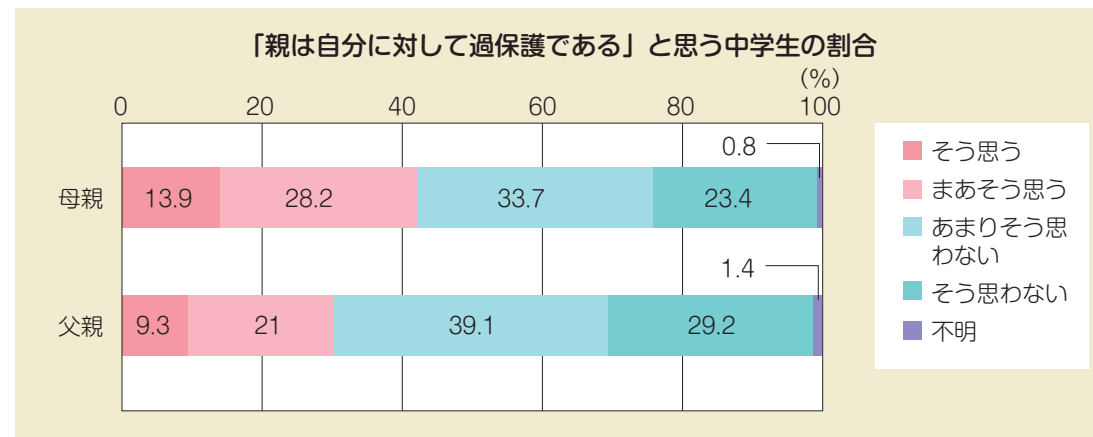
3 エピソード

智也の通学

中学校2年生の智也は自転車通学です。
でもこのごろはいつも母親に車で送り迎えをしてもらっています。



参考資料



※出典：株UFJ総合研究所「子育て支援策等に関する調査」厚生労働省委託（平成15年）

グループワーク

1 4～5人のグループに分かれ、このエピソードを役割分担して読み上げましょう。

2 エピソードについて考えてみましょう。

※この会話から登場人物になったつもりでその気持ちを書きましょう。

智也

母

父

祖父

※登場人物の気持ちについてグループで話し合いましょう。

メモ：

3 あなたの家庭で子どもに過保護な接し方をしていると思われることがありますか。グループで話し合いましょう。

メモ：

4 最後に、話し合ったことをグループごとに発表しましょう。

メモ：

ゆらぐ自我に向き合う！

4 エピソード

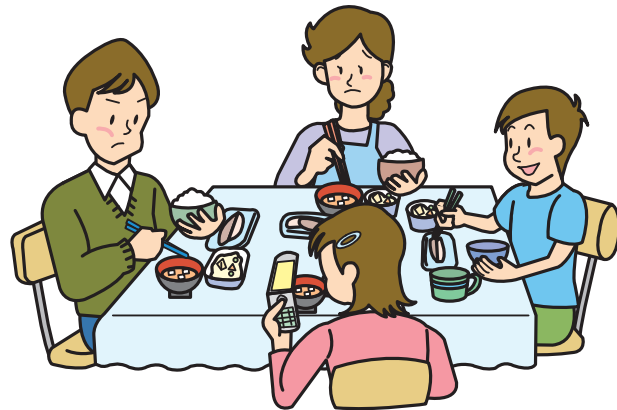
夕飯時の携帯電話

中学1年生の加奈子は、父親と母親と弟の4人家族です。このところ毎日、お母さんに「携帯電話を買って！買って！」としつこくねだっています。そんな加奈子に、お母さんはとうとう根負けして言いなりになってしまいました。それでも、何とか「携帯をかけすぎて成績が下がらないこと」「人に迷惑をかけないこと」を約束させました。

ところが、ようやく携帯電話を買ってもらった加奈子は、携帯電話を片時も離さず、着信をいつも気にかけています。電話料金は高額になることもあり、また、最近では成績も下がってきました。

そんなある日、家庭での夕飯時

お父さんが帰ってきて、久しぶりに夕食に家族全員が揃いました。皆で食事をしている最中に、携帯電話のメールの着信音が鳴り響きました。加奈子は、食事もそこそこに、食卓でメールを打ち始めました。それを見たお父さんとお母さんは……



グループワーク

- 1 エピソードの夕食のような時、あなただったら、子どもにどのように言いますか(どのようにしますか)。グループで話し合みましょう。

メモ：

- 2 あなたの家庭では、ルールや約束事はありますか。子どもがそれを守らなかった時には、どうしますか。グループで話し合みましょう。

メモ：

社会に踏み出す！

5 エピソード

地域デビュー

中学2年生の武は、父親と母親との3人家族です。お父さんは仕事の関係で出張が多く、近所付き合いもあまりありません。そんな家庭で育った武は、小さい頃には引っ込み思案でしたが、中学生になるとたくさんの友達が出来て、楽しく中学校生活をおくっています。

夏休みが近いある日の夕方、学校からの帰り道、近所に住む浩一との会話です。

武 「暑いなあ・・・もうすぐ、夏休みだね」

浩一 「休み中の予定、なにかある？」

武 「今のところ、別はないよ。」

浩一 「8月に、町内会で夏祭りがあるんだよ。」

「ぼく、毎年、準備や夜店の手伝いしてるんだけど、武くんも一緒にやらないか？」

武 「でも、ぼく、近所の人の名前とか顔、あんまりわからないしなあ。子どもやお年よりも、おおぜい来るんだろ？実は、今まで、近所の人たちと話した経験ないんだよ。ぼくにできるかな？」

浩一 「そうか・・・でも、少し考えてみてよ」

武は、その日の夕食時に、両親に相談しました。

武 「浩一くんに祭りの手伝いを誘われたんだけど・・・」

その後、お父さんとお母さんは、武と話し合いをしました。



グループワーク

- 1 エピソードの話の続きを考えてみましょう。あなたの家庭では、どのような話し合いになるでしょうか。グループで話し合みましょう。

メモ：

- 2 あなたの家庭では、子どもの地域活動についてどのように考えていますか。グループで話し合みましょう。

メモ：